



校長室だより

校長 山崎 聡子

キャンプ

12月7日(木)・8日(金)、相模原市ふるさと自然体験教室 ふじの体験の森 やませみに5年生がキャンプに行きました。

初めての宿泊学習。5年生が掲げたキャンプの目標は次の2つです。

1. 友達と仲良く協力し、めりはりをもてるようにしよう
2. 安心して一生の思い出に残せるような楽しいキャンプにしよう

この目標を意識しながら2日間活動をしていきました。大きな活動として4つ実施しました。1日目の竹はし作り、イニシアチブゲーム、キャンプファイヤー、2日目の野外炊事です。

竹はし作りは、竹を使用できる箸へと創り変えていきます。竹を箸の長さに切る際「一咫(ひとあた)」という見方が示されました。これは、親指と人差し指を直角に開いた長さのことで、一咫半が、自分に合った箸の長さであることを施設の方が教えてくださいました。丸みのある不安定な竹を一咫半の長さで横に切ることから始まりました。かなり硬い上、竹が動いてしまうので、友達が竹を押さえたり、班のメンバーで交代しながら切ったりと、助け合いが自然と生まれました。次に、自分の箸用として2本分を取り出すために、一人一人、竹を縦にして、なたで割りました。その後ナイフで竹を削ったり、やすりで磨いたりする過程を経て自分の箸を仕上げました。竹はし作りを通して、竹の内側と外側の硬さの違い、磨くと竹がつるつるになること

箸を作るまで大変だったからこそ、食べるご飯もおいしく感じることに、機械で作った箸とは大きな違いがあること等の気づきがありました。本物の竹と向き合うことで多くのことを学ぶ貴重な体験でした。

イニシアチブゲームの一つとして、お宝(ビー玉)運びを行いました。30cmくらいの長さの竹を半分に切ったものを一人ずつ持ち、その中にお宝(ビー玉)を1つ入れて、ゴールに置いてある竹の中に入れるというものです。途中でお宝を落としたらスタートからやり直し。さらに、お宝を持っている人は、動けないので、チームワークが必要です。最初は、ほとんどの班が一度も運ぶことができませんでした。しかし回を重ねていくうちに、ゴールまでお宝を運ぶことができるようになりました。声をかけ合ったり、一人一人が仲間の動きに合わせてたりして、自分から率先して行動する姿が引き出されていきました。成功数が増えた班、逆に減った班もありましたが、全体で合計した数を見ていくと着実に成功した数が増えていきました。施設の方からは、失敗してしまうこともあるけれど、その時には、できる人が支えていけばいいのだということ、お互いに得手不得手があるからこそフォローし合っていくことが大切であること、「1+1は1以上になる」という話をしていただきました。友達と助け合うことの大切さ、自分の力が皆の力になることそして、実は、自分も支えてもらう時がたくさんあることに気付けるきっかけとなる活動になったのではないかと思います。

キャンプファイヤーは、実行委員の子供

たちが司会・進行を務めました。準備も頑張ってくれていて、皆が楽しく盛り上がって過ごすことができる内容を考えてくれました。開始時は寒さを感じましたが、たくさん踊り、動きのあるゲームを行い、動いている間に体が温まりました。何より、ファイヤーを囲んで、楽しい時間を共有できたことで心が温まったことと思います。子供たちの笑顔あふれていました。心に残る一場面になったことと思います。

夕飯は、2グループに分かれて、食堂でお弁当をいただきました。お弁当を食べる中で、机の上や畳の上に食べ物の一部が落ちたり、残ったりしていました。次のグループのためにきれいに整えようという声かけをすると、ふきんで拭いたり、ゴミを拾ったりする子供が出てきました。一人が気付いて動き始めると他の子供たちにも良い動きが広がっていきます。2日目の朝食後は、1日目以上に、汚れた所をきれいにしようと自ら動く子供たちが多く出てきました。子供同士の良い動きがつながっていくことは、より良い社会を創っていく土台になるものであると考えます。大切にしていきたいことです。

今回、キャンプの目標の一つに掲げた、友達と協力、めりはりをもつ、皆が楽しむキャンプにすることを実現できるように、活動のいたるところで、教職員も声をかけ、施設の方も話をしてくださいました。目標を子供と大人、そして大人同士で共有し、皆で同じ方向を向いて進むことを積み上げてきましたが、2日目の野外炊事において素晴らしい姿を見せました。野外炊事にわくわくしながら集まり、なかなか静かにならない子供たち。自分たちで気付けるよう大人は待っていました。その時に、ある子が「きりかえよう」という言葉を全

体に投げかけました。その言葉を聴いて、少しずつ静かになっていきました。子供の中から良い動きが出てくるということは、何が大切なことなのか価値を見出し、自分で意味付けすることができているからであると考えます。良いものを自分の中に取り入れ、皆にとって意味ある言葉を発信し、発信された言葉を受け止めることができた子供たち。素晴らしい姿でした。

野外炊事も、火起こし、ご飯担当、調理担当と分担を決めて、カレー作りを行いました。私は、調理室に行き、調理担当の子供たちと過ごしました。早く終わった人が終わらない友達の手伝いや片付けをフォローしている姿、それに対するお礼の言葉、「ありがとう」も聴こえてきました。その後、切った食材を入れた鍋を炊事場に運び火起こし係が起こした火にかけていきました。それぞれの仕事に取り組み、皆でおいしいカレー作りに向けて行動しました。食材を切るだけでは、カレーはできませんし火を起こすだけではカレーはできません。それぞれに分担したことを一つに合わせることで、おいしいカレーができ上がっていきます。火で炊いたご飯もおいしくできました。時間をかけながらも自分たちで作ったカレーは最高のカレーであったと思います。片付けも分担し、協力しながら行いました。鍋は使う前よりきれいになったと施設の方がおっしゃるくらい、ぴかぴかに洗い上げていました。次に使う学校の友達のために元に戻すことの大切さを施設の方から学び、実現した貴重な機会でした。

「普段できない活動を通して、協力することの大切さを学べた」「日常生活で今後も生かしていきたい」等の感想がありました。学びを生かし、力が発揮できるよう子供たちを支えていきたいと思っています。